

令和6年度 第4回 札幌方面豊平警察署協議会議事概要

1 開催日時

令和7年2月12日(水) 午後3時30分から午後4時40分までの間

2 開催場所

札幌方面豊平警察署 3階道場

3 出席者

(1) 協議会委員 7名(定員10名)

会 長 井上 朋也

副会長 埜本 麻名

委 員 水上 悟、今藤 亜矢子、山本 典子、佐藤 未帆、北川 洋一

(2) 豊平警察署 6名

署 長 中野 広志

副署長 檜原 亮平

刑事・生活安全官 近藤 雅裕

地域官 荒川 淳

交通官 柴田 修至

警務官 安藤 伸一(事務局)

4 開 会

5 会長挨拶

6 署長挨拶

7 議 事

(1) 犯罪情勢について

(2) 交通事故等情勢について

(3) 議事に関する委員からの要望・意見

(委員からの要望・意見)

昨年秋、豊平警察署の協力を得て、交通安全イベントを月寒地区で開催したが、多くの住民が参加し反響が大きかった。

来年も同様の啓発と、特殊詐欺予防の広報も行いたい。

(警察回答)

交通部門でも生活安全部門の特殊詐欺でも協力は可能、協働して交通安全・防犯に努めたい。

(委員からの要望・意見)

飲酒運転の取締りについて、以前は飲酒運転検挙を目的とした交通検問を多く見かけたが、最近は見かけない。

タクシー業としての職業柄、飲酒事故が気になる。

(警察回答)

今は大々的な検問より、多角的な取締りに移行している。

飲酒運転をする者は、発覚をおそれ逃走し重大事故を引き起こしかねないので、取

締り場所は慎重に選定し安全に配慮して行っている。

飲体制を確保し、飲酒酒運転に限らず整備不良など様々な交通違反を検挙している。

8 諮問事項

「令和6年度における豊平警察署の活動と、今後の警察活動に対する意見要望について」

(委員からの答申)

詐欺被害が毎日新聞に掲載されており、ロマンス詐欺や劇場型など種類も増えてきている。

銀行に防犯啓発のポスターなどが掲示されているのを見るが、ATMに掲示されていないなかったり、掲示物が小さかったりするのでもっとわかるよう、目に見えるように掲示した方がいいのではないか。

(警察回答)

多くの金融機関に協力を依頼し各機関の判断により掲示されるが、中には目に入らない場所もあるかもしれない。

引き続き協力を依頼するとともに、新しい広報を健闘する。

現在、豊平警察署ではデジタルサイネージに力を入れており、主幹道路の大型LEDディスプレイ標識や、大規模イベント会場の大型液晶ディスプレイに防犯啓発画面を、差し込んで広報している。

多くの人の目に止まり、防犯効果は高いと考えられる。

(委員からの答申)

先日、夜に付近住民の女子高校生が、不審者に後をつきまとわれたという話を聞いた。

住宅地には公園もたくさんあり、不審者に襲われる危険や後をつけられる不安がある。

反面、自宅付近をパトカーが走ってるのを見ると安心するし、犯罪も減ると考える。

豊平地区ではパトカーをよく見かけ、パトロールしてくれているのがよく分かるので今後ともパトロールを強化して欲しい。

(警察回答)

街頭活動の強化、赤色灯を付けて走行するレッド走行は常々指示している。

「見せる警戒」により防犯効果を高めるとともに、公園や犯罪発生率の高い場所を中心にパトロールを行っている。

(委員からの答申)

最近の少年の特性として、集団になると気持ちが高ぶり、取り返しのつかない大きな事件に発展したニュースを見た。

学校教育と防犯教養は両輪として進め、子ども達が闇バイトを含む犯罪に手を染めないように、住民と警察が協力しなくてはならない。

先ほどサイバー教養を受け、AIが犯罪に及ぼす影響を教えてもらった。

逆にAIを利用して犯罪抑止は出来ないか。

(警察回答)

AIを利用する反面、情報がAIの糧となり悪事に利用されることもある。

慎重な対応が大事であり、デジタル化は慎重に行い、利用できるところは活用し、アナログの部分も合理化や効率化により発展させて対応する必要がある。

犯罪集団もAIを利用しているとの情報もあり、それに対抗する技術も高めていく必要がある。

道警ではサイバーセキュリティ対策本部など体制を強化して、新たな捜査手法を確立している。

9 報告事項

なし

10 次回の諮問事項等

(1) 開催予定

令和7年6月ころを予定

(2) 諮問事項の事前周知

次回諮問事項は、今回の答申の内容を反映させ事前周知する。

11 閉 会